身体論

東京大学／南京大学　共同開催

わたしたちは身体と共に／として存在している。工学技術、情報技術の発達、脳科学、認知科学／哲学の深化、さらには障がい学やトランス・スタディーズなど〈異なる身体〉から身体概念を問い直そうとする学問の興隆、それらと結びつく社会運動や芸術活動。これらは、わたしたちが何を、あるいはどこまでを〈身体〉と考えるのか、そしてそれがどのような可能性を開き、どのような問題をはらむのかについて、多様な考察をうみだしつづけている。本講演は、哲学、科学、表象文化論の領域を横断しつつ、〈身体〉を考えるうえでのあらたな視点を提示する。

2010年1月8日（金）　東京大学駒場情報教育棟4階　遠隔講義室

16:30～18:00

問題としての「身体」
―西欧思想史の観点から

講演者＝原和之（東京大学　地域文化研究）

司　会＝清水晶子（東京大学　表象文化論）

18:10～19:40

人の認知に対して身体がもつ意味
―認知科学の観点から

講演者＝植田一博（東京大学　広域システム科学）

司　会＝清水晶子（東京大学　表象文化論）

主催
東京大学リベラルアーツ・プログラム（南京）
http://www.ealai.c.u-tokyo.ac.jp/ja/

お問い合わせ
contact@ealai.c.u-tokyo.ac.jp